

令和４年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【めざす学校像】児童生徒一人ひとりの「自立と自己実現」に向けて教育実践するとともに、地域社会に対しても「多様性社会の実現」を推進できる学校 ＊その実現のために、《チーム光陽！つたえる・分かち合う・つながる》を合言葉に、以下の4点について連動させて取り組み、「好循環な学校」を作る。 1.【基礎】安全安心な校内体制構築の実現。 ～児童生徒の心身の健康と人権を守り、安全・安心に学べる学校～ 2.【実践】質の高い授業実践の実現。 ～主体的な学びを大切にし、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた質の高い授業実践ができる学校～ 3.【組織】質の高い教員集団の実現。 ～学校組織として支援教育の専門性を高め、一人ひとりの教職員が学び続け、チームで協働できる学校～ 4.【発信】多様性社会の推進と実現。 ～地域に開かれ、お互いの学びを発信し、すべての人が自分らしく生きていく社会の実現に向けて使命が発揮できる学校～
--

2 中期的目標

●「学校経営推進費」を受けた年度(R3)【事業名】「光陽 GoGo プロジェクト～未来の扉を自分で開こう！～」 ＊ 導入機器→「スパイダー」「ベビーロコ」「スノーズレン関連機器」「SDGs 関連取組の陶芸・七宝焼道具」等。 1.【基礎】安全安心な校内体制構築の実現(安全安心力の向上) ～児童生徒の心身の健康と人権を守り、安全・安心に学べる学校～ (1)「学校生活のあらゆる場面で児童生徒・教職員の人権が尊重される学校」を実践・実現するため、「人権尊重の教育」を推進する。(取組み重点) (2)すべての児童生徒の「心身の健康」を守り、すべての児童生徒・保護者・教職員にとって「安全安心な医療的ケア実施体制」を構築する。 ・すべての児童生徒の「心身の健康」を守るために組織として報告・連絡・相談・連携等の体制を維持する。新型コロナウイルス感染症等の感染症対策を継続実施する。 ・人工呼吸器の管理等、高度な医療的ケアも含めたすべての医療的ケアが、安全安心に行えるための環境整備を行い、校内体制を構築していく。 (3)学校における「危機管理体制」を強化し、事故・事案の未然防止に努める。また、万が一発生した時には、児童生徒・保護者・教職員へのリスクを最低限にとどめる。 ・現在ある危機管理関係の手引きを集約・分析し、社会の変化に対応した形で「学校における危機管理の手引き」「業務継続計画(BCP)」等を整理する。 ・「大災害発生時」においても児童生徒・教職員の「命を守る」対応ができるように、「大災害対応防災マニュアル」を継続検討し、定期的に訓練を実施する。 2.【実践】質の高い授業実践の実現(授業実践力の向上) ～主体的な学びを大切にし、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた授業実践ができる学校～ (1)新学習指導要領を踏まえた学校全体の「教育課程」について、再編成を行う。 ・「光陽グランドデザイン」の完成。(R3「めざす児童生徒像」「めざす教職員像」等の確定→R4「各学部教育目標」のつながり等の確定→R5「光陽グランドデザイン」確定) ・「学びの連続性」「キャリア教育」の視点を大切に、「教育課程」の再編成について、「教育課程検討委員会」等が中心となり、検討・作成を進める。 (2)主体的な学びを大切にした授業実践(観点別評価含む)を実現するため「研究授業」や「授業振り返り研修会」「教職員間の授業参観週間」を充実させる。 ・定期的に学年・学部で話し合い、授業力向上及び授業改善のための大切な観点を共有し、新たな気づきや学びを「明日からの授業」に活用する。 ・各教職員の「経験年数に応じた学び」や「教科等に応じた学び」を充実するために、学部を超えて相互に授業観察ができるシステムを構築する。 (3)自立活動における専門性の向上を図るための取組みを行う。(光陽 GoGo プロジェクトの取組み含む) ・外部人材等を積極的に活用し、初任者や経験年数の少ない教員への指導も含めた「自立活動の専門性の向上」のための取組みや検証を行う。 ・スパイダー・移動支援機器・スノーズレンや GIGA スクール構想に伴う 1 人 1 台のタブレット等 ICT 機器等を積極的に活用し、自立活動の指導の幅を広げ、充実させる。 ※上記(3)の取組みにより、「光陽 GoGo プロジェクト」の「自立活動を中心とした実践」における学校教育自己診断関連質問項目を 1 年目(R3)・2 年目(R4)・3 年目(R5)ごとに新設する。各年度の新設項目の肯定的回答率について、教職員・保護者ともに、令和 3 年度 65%以上(達成済)、令和 4 年度 70%以上、令和 5 年度 80%以上とする。〈R3 教職員 90% 保護者 74%〉 3.【組織】質の高い教員集団の実現(組織力の向上) ～学校組織として支援教育の専門性を高め、一人ひとりの教職員が学び続け、チームで協働できる学校～ (1)全教職員のスキルアップ研修と次世代育成継承システム(OJT)を充実し、学校組織として支援教育の専門性を高める。 ・教職員の研修形態を「全校研修」と経験年数や課題別等の「ニーズ研修」の両輪で展開し、組織として全教職員の専門性向上を実現する。 ・学年内での日常的な次世代育成継承システム(OJT)を充実し、全教職員が、「内発的な問題解決発想」を持ち、「なぜ」「何のために」のすり合わせを行っていく。 (2)組織としての「引継システム」を促進する。 ・定期的な「整理整頓」の実行をおこない、校務のスリム化を促進する。 ・授業・教材・業務等の各分野での「アーカイブ化」を「教育課程や年間計画」「発達課題」等と関連させて実行し、効率的な授業準備等に活用する。 (3)教職員が「教職員としての根幹の業務」に専念できるように「教職員の働き方改革」を推進する。 ・教職員が心身ともに健康な状態で児童生徒に向き合い指導・支援するために、全ての教職員が自らの責任を果たし、「働きやすい職場環境作り」を促進する。 4.【発信】多様性社会の推進と実現(発信力の向上) ～地域に開かれ、お互いの学びを発信し、多様性社会の実現に使命が発揮できる学校～ (1)「学校間交流」「居住地校交流」等について進化・深化させ、SDGsの視点も取り入れながら、「ともに学び、ともに育つ」教育のさらなる推進を行う。 ・「学校間交流」「居住地校交流」について、双方の学びを社会に発信することで、「すべての人が自分らしく生きていく社会の実現」に向けて使命を発揮する。 (2)「地域に開かれた学校作り」実現のため、保護者・地域住民・地域小中学校・関係機関との協働を推進し、併せて「支援教育のセンター的機能」を発揮する。 ・地域住民や民生委員・校区福祉委員会の方々と連携し、「地域の教育力」を活用した授業を展開する中で、お互いが活性化できる取組みを工夫する。 ・地域支援については、支援教育コーディネーターに加えて校内教職員の専門性を活用し、学校全体で「支援教育のセンター的機能」を発揮する。 (3)児童生徒・教職員が光陽支援学校の取組み・実践・自らの学びを積極的に発信し、「すべての人が自分らしく生きていく社会の実現」に向けて使命を発揮する。 ・教職員は、自分たちの実践のまとめについて、「わかりやすく伝える力」(プレゼンテーションスキルや言葉の精選等)を強化し、校内外で発表の機会を作り、発信する。 ・ホームページ等の充実を図り、何度もアクセスしたくなる内容・更新ペースを検討し、学校の「見える化」を図る。 ※上記(3)の取組みにより、「光陽 GoGo プロジェクト」の「SDGs拠点校としての実践・発信」における学校教育自己診断関連質問項目を 1 年目(R3)・2 年目(R4)・3 年目(R5)ごとに新設する。各年度の新設項目の肯定的回答率について、教職員・保護者ともに、令和 3 年度 65%以上(達成済)、令和 4 年度 70%以上、令和 5 年度 80%以上とする。〈R3 教職員 94% 保護者 89%〉

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和４年12月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R3 年度値]	自己評価
1 安全安心力の向上 【安全安心な校内体制構築の実現】	(1) 人権尊重の教育推進	(1) ・ 教職員の人権研修として、「アサーティブコミュニケーション」等、健全な同僚性構築に必要な様々なコミュニケーションスキルを3年計画で学ぶ。(2 年めの取り組み) ・ 児童生徒に使用する「ことば・行動」と同僚間で使用する「ことば・行動」の質を高める。	(1) ・ 全校研修 1 回で外部講師招聘。 ・ 毎月の学年会等を活用して、「ことば・行動」について振り返り、気づきを発信し共有する。 ・ 学期ごとに振り返り事例をまとめて実践に活かす。	
	(2) 心身の健康を守る教育の推進	(2) ・ 感染症対策を定期的に見直し、感染拡大を防止する。 ・ 児童生徒のいつもと違う姿は、報告・連絡・相談の徹底。ヒヤリハット・インシデント等の報告と対応の迅速化。 ・ 安全安心な医療的ケア実施体制構築に向けて、医師と連携を行い、巡回指導・教職員研修を実施する。 ・ 高度な医療的ケアが増える中、定期的な緊急対応シミュレーションの実施。(バリエーションを増やす)	(2) ・ 感染症マニュアルのアップデート。 ・ インシデント分析と症例検討。(学校医からの助言・年 3 回) ・ 医師による巡回指導 3 回・全校研修を1 回実施。 ・ 緊急対応シミュレーション年3回。	
	(3) 危機管理体制の強化	(3) ・ 「大災害時の対応マニュアル」の登下校バージョンについて「通学バス見守りソリューションシステム」と連動させる。 ・ 大災害時を想定した教職員用訓練の実施。 ・ 地域関係者と連携し、避難所開設時の体制について、感染症対策も含めて、確認・調整を進める。 ・ 「光陽支援業務継続計画(BCP)」を策定し、実効性のあるものに精度を高める。	(3) ・ 「通学バス見守りソリューションシステム」の運用と課題の整理。 ・ 「大災害発生」を想定した模擬訓練(関係機関含)実施 1 回。 ・ 「光陽安心メール」にて大災害時の回答訓練を7月に実施。 ・ 地域関係者との連携会議年 3 回。	
2 授業実践力の向上 【質の高い授業実践の実現】	(1) 教育課程の再編成	(1) ・ R3 年度に確定した「めざす児童生徒像」「めざす教職員像」を受け、今年度は「各学部教育目標」のつながりについて協議を行う。「教育課程検討委員会」等が中心となり、全教職員で「光陽支援のグランドデザイン」を作成。 ・ 「教育課程」に基づいた「年間計画(シラバス)」について、精査し、学部内・学部間で共有を行う。	(1) ・ 「光陽支援のグランドデザイン」の「各学部教育目標のつながり」について完成。(年度内) ・ 「年間計画」のデータベース化と「観点別評価」の具体化。	
	(2) 質の高い授業実践	(2) ・ 「授業振り返り研修会」「教職員の授業参観週間・交流会」を実施し、学びを「明日からの授業」に活用する。 ・ 授業「光陽いいとこ集め」を蓄積する。 ・ 10 年経験者研修等を活用した「公開研究授業」を実施し、ミドルリーダーとしての授業改善を進める。 ・ 質の高い授業作りのため、全校研修会で学び、授業改善につなげる。 ・ 1人1台端末の導入を受けて、「アクションプラン」を作成し、ICT を効果的に活用した授業実践を累積する。	(2) ・ 「授業振り返り研修会」1 回と「授業参観週間等」1 回の実施。 ・ 「光陽いいとこ集め」を継続し、首席から各学部ににて共有。 ・ 「公開研究授業」3 回以上実施 ・ 外部講師招聘による「全校研修会」1 回実施。 ・ 「ICT 実践報告会」(4 事例)	
	(3) 自立活動の充実	(3) ・ 「光陽 GoGo プロジェクト」自立活動の実践で、2 年めの取り組みを進める。具体的には、 スパイダーや移動支援機器・スヌーズレン等の導入機器を積極的に活用し、児童生徒が自ら外界へ関わる力を伸ばし、社会へ参画する機会を増やす。	(3) ・ 「スパイダー報告会」2 回実施。実践の好事例を共有。 ・ 「光陽 GoGo プロジェクト」自立活動の実践で 学校教育自己診断の関連項目 教職員・保護者とも肯定的評価 70%以上。	
3 組織力の向上 【質の高い教職員集団の実現】	(1) 教職員の専門性向上	(1) ・ 教職員の専門性向上に必要な研修として、全校研修会以外に全国の支援学校や研究協議会が開催する「オンライン研修会」を積極的に活用する。 ・ 学年・学部内での日常的な次世代育成継承システム(OJT)を充実し、全教職員が、「内発的な問題解決発想」を持ち「なぜ」「何のために」のすり合わせを行っていく。(学部研修会や事例検討会の充実と活用)	(1) ・ 「オンライン研修」が受講しやすい環境調整。 ノー会議デイ等の有効活用。 ライブビューイングの設定。 ・ 学年・学部での事例検討会を年間 4 事例実施。	
	(2) 引継システムの推進	(2) ・ 定期的な「整理整頓」を行い、校務のスリム化を促進する。5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)+S(支援)の実行。 ・ 各学部・分掌・委員会等で電子データの整理を推進し、効率的な授業準備や引継等に有効活用する。	(2) ・ 産業医による校内の「5S+S」の状況評価。(年 3 回実施) ・ 各学部・分掌で工夫・実行した内容を職員会議等で共有。	
	(3) 教職員働き方改革推進	(3) ・ 教職員が心身ともに健康な状態で児童生徒に向き合い指導・支援するために①「仕事の時間を区切る」②「仕事のスリム化を行う」③「仕事の仕方を変える」の3点で整理をしながら、全ての教職員が自らの責任を果たし、「働きやすい職場環境作り」を促進する。(毎日 19 時施錠継続) ・ 教職員の腰痛予防について専門機関と連携し、研修・相談体制を継続する。(始業体操のバージョンアップ) ・ 教職員の腰痛対策について「子どもにとって・教職員にとって安心安全な移乗支援」プロジェクト～多職種チームでの実践～に取り組む。	(3) ・ 整理整頓できる時間の確保。(安全衛生委員会に合わせて設定) ・ 腰痛予防対策の協働実践について、専門機関とともに報告書を作成し、校内外で発信する。 ・ 「子どもにとって・教職員にとって安心安全な移乗支援」プロジェクト～多職種チームでの実践～について、学校運営協議会で、計画・進捗を3回報告。	
4 発信力の向上 【多様性社会の推進と実現】	(1) 交流および共同学習の充実	(1) ・ 「学校間交流」「居住地校交流」について、実践を充実。「出前授業」を行い、交流後の「相互の学びや気づき」を校内外に発信する。 ・ 「SDGsの視点や取組み」を交流の中でも活用する。 ・ 授業で作成した焼き物(SDGs 植木鉢等)を交流校に渡し、SDGs プレーヤーとして学んだことを伝える。相手校のSDGs の取り組みを聞く機会も設定する。	(1) ・ 「対面交流」「オンライン交流」を併用して、学びを深める。 ・ SDGs プレーヤーとして交流校へ作品を渡し、発表の機会を作る。(小学部・中学部・高等部各1 事例)	
	(2) 地域に開かれた学校作り	(2) ・ 「授業実践・教職員研修」について積極的に地域へ公開(オンライン研修等)するとともに、コーディネーターによる地域支援も含めたセンター的機能を発揮する。 ・ 地域の方々とながら工夫を行い、「SDGsの視点や取組み」を発信する中で、自分たちの使命を発揮する。「届け服のチカラプロジェクト」2 年めの取り組み実施。	(2) ・ 夏季公開オンデマンド研修を実施し、参加者の満足度アンケートの肯定的評価 70%。 ・ 「光陽 GoGo プロジェクト」SDGsの取組みで 学校教育自己診断の関連項目 教職員・保護者とも肯定的評価 70%以上。	
	(3) 実践の積極的発信	(3) ・ 教職員は、自分たちの実践のまとめについて、「わかりやすく伝える力」(プレゼンテーションスキルや言葉の精選等)を強化し、校内外で発表の機会を作り、発信する。 ・ ホームページ等の充実を図り、保護者や地域の方々・関係機関への「学校の見える化」を図る。 ・ 保護者へは、「光陽安心メール」も有効活用する。	(3) ・ 研究会等校内外で実践発信。(出版物・冊子等含む) ・ ホームページの行事毎の定期的な更新。 ・ 「光陽安心メール」で、「光陽 GoGo 通信」等を年 10 回発信。	